明海大学
不動産学部

不動産の話題 [35]

学生と教員の見方

〈景観資源の評価③〉

街中の公園の利用方法と役割

幅広い世帯からの需要

憩いの場、避難場所としても活用

【学生の見方&考え方】
（3年　瀬川滉矢）

千葉県市川市にある南行徳公園を訪れた。公園の管理は市川市街づくり部公園緑地課である。この公園にはえんぴつの形をした遊具があることから、通称えんぴつ公園と呼ばれている。そのほかにも池や野球場、プールなどさまざまな設備があり、公園の外周には花が植えられ、570㍍のジョギングコースにはバラのトンネルがある。

実際に公園を歩いてみると、子どもがたくさんいて元気に遊んでいたが、遊具をトレーニング器具として使っている人や散歩をしている人も多くいた。公園といえば子どもが遊ぶ場所として使われているイメージだが大きな公園ほどさまざまな用途に使われている。高校生から大学生くらいの人たちも意外と多く利用していて、ただ散歩しているだけではなく憩いの場になっているようだった。

小さな公園に小さい子どもがたくさんいると大人が居づらい空間になってしまうことがあるが、この公園はとても幅広い世帯に使われている。また公園の周りを歩いていると赤十字社の救援物資等保管倉庫があったことから、災害時の避難場所になっているようで、そのことで安心感を覚える人もいるのかと思う。

夏には、公園の中に幼児プールも整備された大変充実した公園である。

【アピールポイント】
さまざまなことに挑戦することが好きです。最近はボクシングにハマっていて日々練習に励んでいます。

【教員による展開】
（浜島裕美教授）

南行徳公園は、開設面積2・3㌶、園内には少年野球場2面、築山とその斜面を流れる人工のせせらぎ、長さ30㍍のローラー滑り台、多種のアスレチック遊具、25㍍プールと子ども用ミニプールも整備されている大変充実した公園である。

街中に配置されている公園は「都市公園」といって、規模により住区基幹公園、都市基幹公園、大規模公園などの種類がある。住区基幹公園には、街区公園、近隣公園、地区公園があり、南行徳公園は近隣公園に属する。1街区（半径250㍍の範囲内のこと。これを誘致距離という）内に街区公園1カ所、1近隣内に近隣公園1カ所、1地区内に地区公園1カ所配置するという目安がある。

都市公園の役割として、市民活動の場、憩いの場、豊かな地域づくり、地域の活性化、良好な都市環境の提供、都市の安全性の向上と災害対策など多様なものが挙げられる。

住区基幹公園は市や町が管理していることがほとんどだが、2023年3月31日現在で住区基幹公園の総数（全国）は9万9382カ所、総面積3万5391㌶であり、その維持管理費用が増大している。そのため、植栽や遊具などの十分な維持管理ができず、見通しが悪い場所が発生することや、夜間は暗くなり不法投棄や犯罪の温床になるなど懸念も指摘されている。ボランティアの導入や地域住民を主体とした管理運営なども進められているところもあるが、実際には清掃や除草、花壇管理に留まっているようである。

公園の維持管理には費用と人手がかかることが利用者にも十分周知されることが、今後の良好な公園の存続には必ず必要になってくるだろう。